３　ESDと教科横断的な指導（ESDで授業が変わる）　＜1＞

＜ＥＳＤの概念図＞

①課題・原因についての多様な見方や考え方
②地球規模で物事を考える能力・態度
↓
③自らの問題としてとらえ、解決につながる価値観や行動を生み出す
④他者と力を合わせ、具体的な行動で持続可能な社会づくりを実現する人材の育成

各教科
総合的な学習の時間
道徳
特別活動
外国語活動

これまで特定の教科等を設けずに行ってきた
- 環境教育
- 人権教育
- 消費者教育
- 健康教育
- 防災教育
- 国際理解教育
- キャリア教育
- 食育　　等

＋

「持続可能な開発」

「持続可能な社会づくり」という大きなねらい

学校でも・・・
各教科等の学習活動との関連
各教科等の中で指導

３　ESDと教科横断的な指導（ESDで授業が変わる）　＜２＞

＜研究主題＞
地域に根ざし、持続可能な未来を切り拓く児童の育成
～ＥＳＤの日常的な実践を目指して～

（１）これまでの教育活動をＥＳＤの視点から見直し、教科横断的な指導を行うこと

（２）各教科等の目標を達成するための学習活動を通して「ＥＳＤで育む力」を育成する。結果として「各教科等でつけるべき力」と「ＥＳＤで育む力」の双方を高めること

３　ESDと教科横断的な指導（ESDで授業が変わる）　＜3＞

（１）ＥＳＤの視点に立った学習指導とは－１

『学校における持続可能な発展のための教育（ＥＳＤ）に関する研究（最終報告書）』（国立教育政策研究所）より

＜ＥＳＤの視点に立った学習指導の目標＞
　持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力・態度を身につけること

＜持続可能な社会づくりの構成概念＞

人をとりまく環境に関する概念

①多様性　②相互性　③有限性

＜いろいろある＞＜関わり合っている＞＜限りがある＞

人の意思・行動に関する概念

④公平性　⑤連携性　⑥責任性

＜一人一人大切に＞＜力を合わせて＞＜責任をもって＞

＜ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度＞

①批判的に考える力
②未来像を予測して計画を立てる力
③多面的、総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する態度
⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度

単元の学習内容と持続可能な社会づくりとの関連を検討する手がかり

ＥＳＤで育む力
＊　本校ではこれを４つに再構成（次頁）

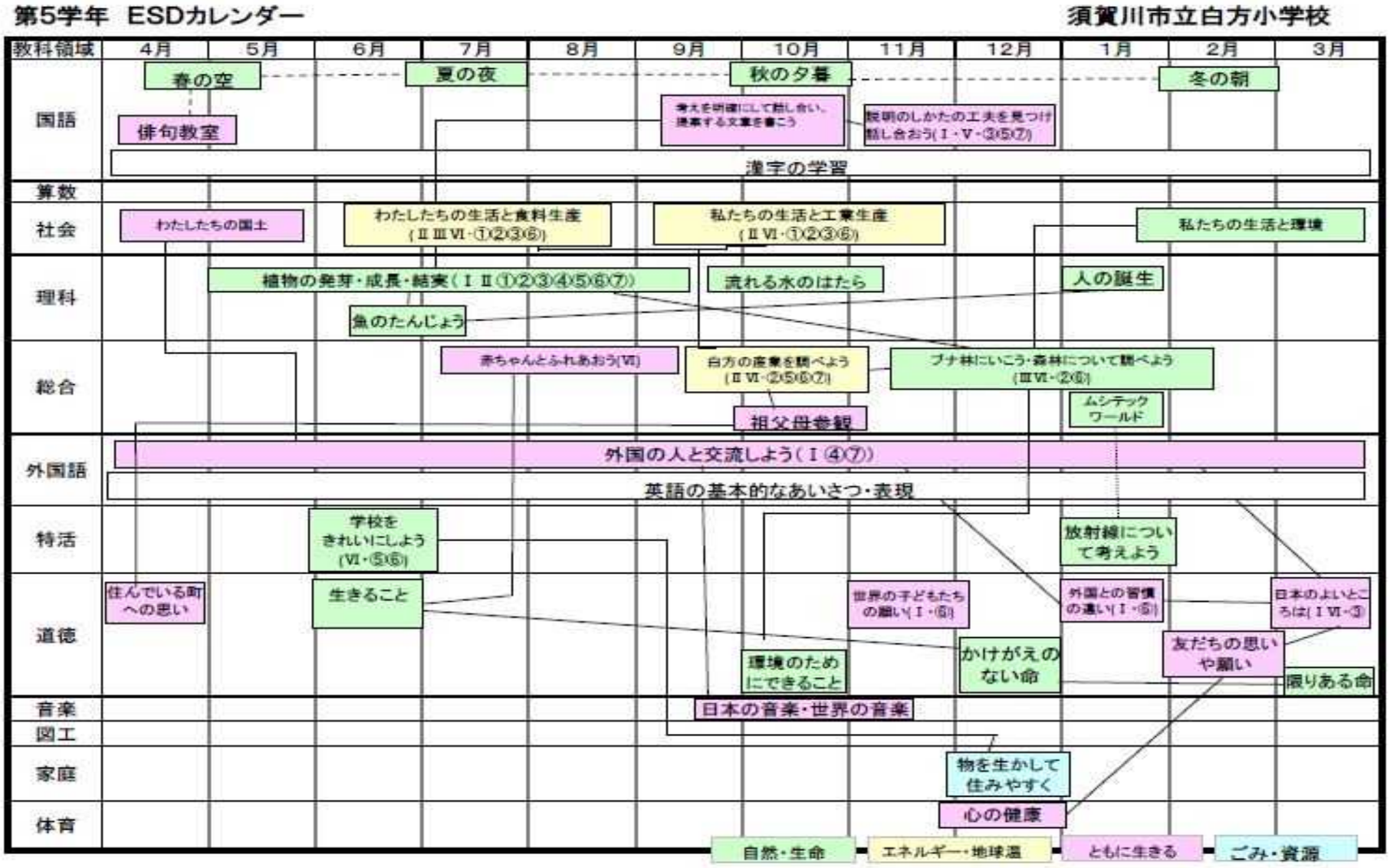
３　ESDと教科横断的な指導（ESDで授業が変わる）　＜４＞

（１）ＥＳＤの視点に立った学習指導とは－２
～白方小学校「ＥＳＤの視点に立った学習指導で育む能力・態度」～

「生きる力」との関連	白方小のESDで育む4つの能力・態度			『最終報告書』「7つの能力・態度」との関連
〔知〕 ○思考力 ○判断力 ○課題発見能力 ○問題解決能力	多様な観点と見通し	多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力	・ さまざまなものごとを多面的に見つめ、それをほかの分野や自分の知識・経験などと関連づけて総合的にとらえ、批判的に考えて判断する力 ・ 見通しを持って、よりよい解決策を積極的に考える力	① 批判的に考える力 ③ 多面的、総合的に考える力
〔知〕 ○表現力 〔徳〕 ○協調性 ○感動する心	交流と協力	気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度	・ 自分の考えを持つとともに、それを他者にしっかり伝えて、協力して実行する態度 ・ 相手の立場を尊重しながら、自分の気持ちや考えを伝え、積極的にコミュニケーションを行う態度	④ コミュニケーションを行う力 ⑤ 他者と協力する態度
〔徳〕 ○協調性	つながり	さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度	・ 自分と人・社会・自然などとのつながりに関心を持ち、尊重するとともに大切にしようとする態度	⑥ つながりを尊重する態度
〔知〕 ○判断力 〔徳〕 ○自律心	主体的・計画的	よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度	・ よりよい未来を思い描きながら、その未来を実現するために必要なことに進んで計画的に取り組む態度 ・ 学んだことをもとに自分の生活を振り返り、よりよい生き方を考えようとする態度	② 未来像を予測して計画を立てる力 ⑦ 進んで参加する態度

3　ESDと教科横断的な指導（ESDで授業が変わる）　＜5＞

（１）教科横断的な指導計画「ＥＳＤカレンダー」－１



３　ESDと教科横断的な指導（ESDで授業が変わる）　＜６＞

（１）教科横断的な指導計画「ＥＳＤカレンダー」－２

江東区立東雲小学校で開発され、全国のユネスコスクールへ

教科・領域に散在している学習内容を関連づける
＝線で結ぶ

いくらでも結びつけることはできる

教科横断的な学習の進め方を「見える化」

カリキュラムマネジメント

・いつ
・どのような視点で
・どのような学びを
・どのように関連づけることができるか
が明確に

＜関連づける意図や根拠を明確に＞
- 児童や学校、地域の実態、課題
- 学年や学級のテーマ
- 担任の思いや願い
- 児童の課題意識や学びの方向

など

３　ESDと教科横断的な指導（ESDで授業が変わる）　＜7＞

（２）「各教科等でつけるべき力」と「ＥＳＤで育む力」の双方を高める－１

授業が変わるとは「目標」が変わること

単元本来の「単元の目標」と「ＥＳＤで育む力」を合わせた、新たな「ＥＳＤの視点に立った単元の目標」を設定して授業を行う

３　ESDと教科横断的な指導（ESDで授業が変わる）　＜８＞

（２）「各教科等でつけるべき力」と「ＥＳＤで育む力」の双方を高める－２

第６学年　社会科「新しい日本、平和な日本へ」（吉田　貴子教諭）

本単元で＜多様な観点と見通し＞（ＥＳＤで育む力）の観点から、つけたい力を、学習内容との関連から次のように設定

戦後の改革が短期間で達成されたのは何によるものなのかを、既習の史実に基づいて考えることができる力

⇒ここから「単元の目標」（下記）や各時間の「ねらい」を設定

	指導書に示されているもの	吉田教諭の設定したもの
知識・理解	・　戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会のなかで重要な役割を果たしてきたことがわかる。 ・　自分たちの生活の歴史的背景を理解している。	・　平和主義により、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたという立場を理解している。 ・現在の日本の豊かさは、過去の歴史と人々の努力によって積み重ねられていることを理解している。 ＜多様な観点と見通し＞

単元の目標が変われば、本単元でつけたい力が変わり、指導計画が変わる。
「本時のねらい」が変われば、その時間の指導過程や発問が変わる。

３　ESDと教科横断的な指導（ESDで授業が変わる）　＜９＞

（２）「各教科等でつけるべき力」と「ＥＳＤで育む力」の双方を高める－３

戦後の改革が短期間で達成されたのは何によるものなのかを、既習の史実に基づいて考えることができる力

をつけたい⇒では、今日の授業では・・・

①「戦後の改革が短期間で達成されたのは何によるものなのか」を既習の史実に基づいて考えさせるには、どうすればよいだろうか？

②　授業ではいつも「仮説を立てる」「検証する」という流れを取っているが、この時間では児童が「多様な観点」（ひと・もの・こと・社会・自然など）からそれができるよう、資料の準備や発問を工夫してみよう。

「この単元（授業）本来のねらいを達成させる方策」と「ＥＳＤの視点に立った方策」をからめて考える

３　ESDと教科横断的な指導（ESDで授業が変わる）＜10＞

（２）「各教科等でつけるべき力」と「ＥＳＤで育む力」の双方を高める－４

「ＥＳＤの考え方に基づいて新たな方策を取り入れ、その方策は、優先すべき単元本来の目標を達成するためにも効果的に働く」ことを意識して日々の授業をデザインする

ESDで授業が変わる（ＥＳＤの日常的な実践）